



おり ひめ もり 織姫の杜

桜並木、旧織姫神社とともに東側遊歩道を整備
歴史と緑に包まれた、市民の新たな憩いの場

春には満開の桜に包まれ、ライトアップも美しい美喜仁桐生文化会館（桐生市市民文化会館）沿いの桜並木と、それを横目に静かに佇む旧織姫神社。桐生市役所本庁舎駐車場の東側には遊歩道を新設し、駐車場周りの一帯を「織姫の杜」と総称して、令和8年4月より供用を開始した。現在市役所本庁舎や市民文化会館、厚生総合病院などが立つ敷地には、明治23年に竣工した日本織物株式会社の工場群があった。全国的にも早期の機械制織物工場で、桐生で最初とされるノコギリ屋根工場を含んだ敷地一帯は数度の変遷の後、最終的に所有していた富士紡績株式会社より昭和30年に桐生市へ譲渡され、今日の大規模施設群の形成に至る。

境内には同社発展の立役者であった佐羽喜六の顕彰碑や、富士紡績から桐生市への敷地の譲渡を当地の歩んだ歴史とともに記録した碑なども残り、この地に国内有数の規模を誇った織物工場があった史実を伝える貴重な空間となっている。

旧織姫神社から市役所本庁舎にかけての外構は開放的な遊歩道として新たに整備され、梅田の里で古くから「子育て弁天のサルスベリ」として親しまれた古木で桐生川ダムの建設にあたり移植されたサルスベリ（百日紅）や、平成17年の桐生市・新里村・黒保根村合併記念で植樹された樹木などが、行き交う人々に安らぎを与える。市民文化会館沿いの桜並木は車路を廃して歩行者専用とし、車の通行を気にせずゆったりと散策できる緑地帯となった。

広い駐車場とともに明るく開かれた「織姫の杜」。桐生の近代産業史を飾る地に、新たな憩いの場が生まれた。

【織姫の杜】

●住所／桐生市織姫町1-1
(桐生市役所本庁舎外構)